

COI-YNU
セミナーシリーズ
2019.5

案内

- COI-YNUセミナーシリーズ 2019.6
 - ゲスト 国土交通省総合政策局交通計画課蔵持課長
 - 日時 2019.6.12
 - 場所 横浜国立大学理工学講義棟A107
- NHK横浜文化センター連続講義「知の大学」
 - 第二回 バスがまちをかえていく by 中村文彦
 - 日時 2019.5.25 10:00-12:00
 - 費用 この回だけの参加は約4300円
 - 座席にもものすごく余裕があります。

本日の内容

- 前置き
 - 中村文彦
- プレゼンテーション
 - 吉田樹先生
- 対談
 - 吉田樹先生 × 中村文彦
- フロアを交えた議論

前置き

- 最近の講演の骨子

- 持続的で創造的な都市が必要
- 自家用車に依存しすぎるスタイルからの脱却が必要
- 自家用車利用から転換してもらえる交通手段
 - 今の公共交通でよい？
 - シェアリングは大丈夫？
 - 自動運転は大丈夫？
 - 自家用車から転換する？（選択肢になる？知ってもらえる？選んでもらえる？）今のままではNOではないか？
- 選んでもらえる仕組みをつくる →MAAS？
 - オープンな統合情報、比較情報、予約、決済
 - 便利になる、だけでは、都市の未来には貢献できない。

参考文献

モビリティクラウドを活用したシームレスな移動サービス(MaaS) の動向・効果等に関する調査研究(第一次中間報告(欧州調査))

副所長 藤崎 耕一

総括主任研究官 林 正尚

研究調整官 山形 創一

研究官 高久 真以子

研究官 奥井 健太

(1) 欧州連合(EU)における最近の動向

2011年白書で、温室効果ガス削減の一環として、2020年までに欧州マルチモーダル交通の情報、支払い等のシステムの枠組みを立上げる目標を掲げた。ITS指令は、マルチモーダル travel 情報サービスの提供等に関する仕様等の開発等のための優先行動について、一定の加盟国の責務を規定している。マルチモーダル travel 情報サービスの提供に関し ITS 指令を補完する規則は、加盟国が静的 travel 等のデータへのナショナルアクセスポイントを設置すること、交通運営者等が、欧州標準等の利用により、当該データを2019年12月以降2023年までの段階的期限までにナショナルアクセスポイントを通じて無差別原則で提供すること、加盟国がナショナルアクセスポイントを通じて動的データを提供する場合も交通運営者等は欧州標準等を利用すること等を規定している。

(2) フィンランドにおける動向

新法施行前の 2017 年に、Whim アプリが一般向けサービスを開始した。2018 年施行の新交通事業法は、旅客運送、配車、カーシェアリング、駐車場運営等の事業者がダイヤ等主要データについてオープンインターフェイスで原則開放すること、当初は鉄道及び道路の旅客運送、仲介及び配車の事業者等が基本運賃の 1 回切符等に関する販売システムについてオープンインターフェイスで原則開放することとした。ヘルシンキ交通局は、基本運賃等の切符販売 API を無料開放し、MaaS 運営者に手数料等は払わない旨公表している。

(3) スウェーデンにおける動向

タクシーを除く公共交通の静的及び動的なデータは Samtrafiken を通じて、同国の標準形式及び当該形式から変換した GTFS 形式等で開放されている。販売システム開放規制はなく、公共交通の切符販売システムについて相互アクセスできるインターフェイス等の標準化が進められているが、タクシー等については未開発である。MaaS 運営者による 2019 年の実証導入がストックホルム県等の関係者により、カーシェアリング駐車場の確保や、手ぶら旅客購入品配送サービスとの組合せを含め検討されている。

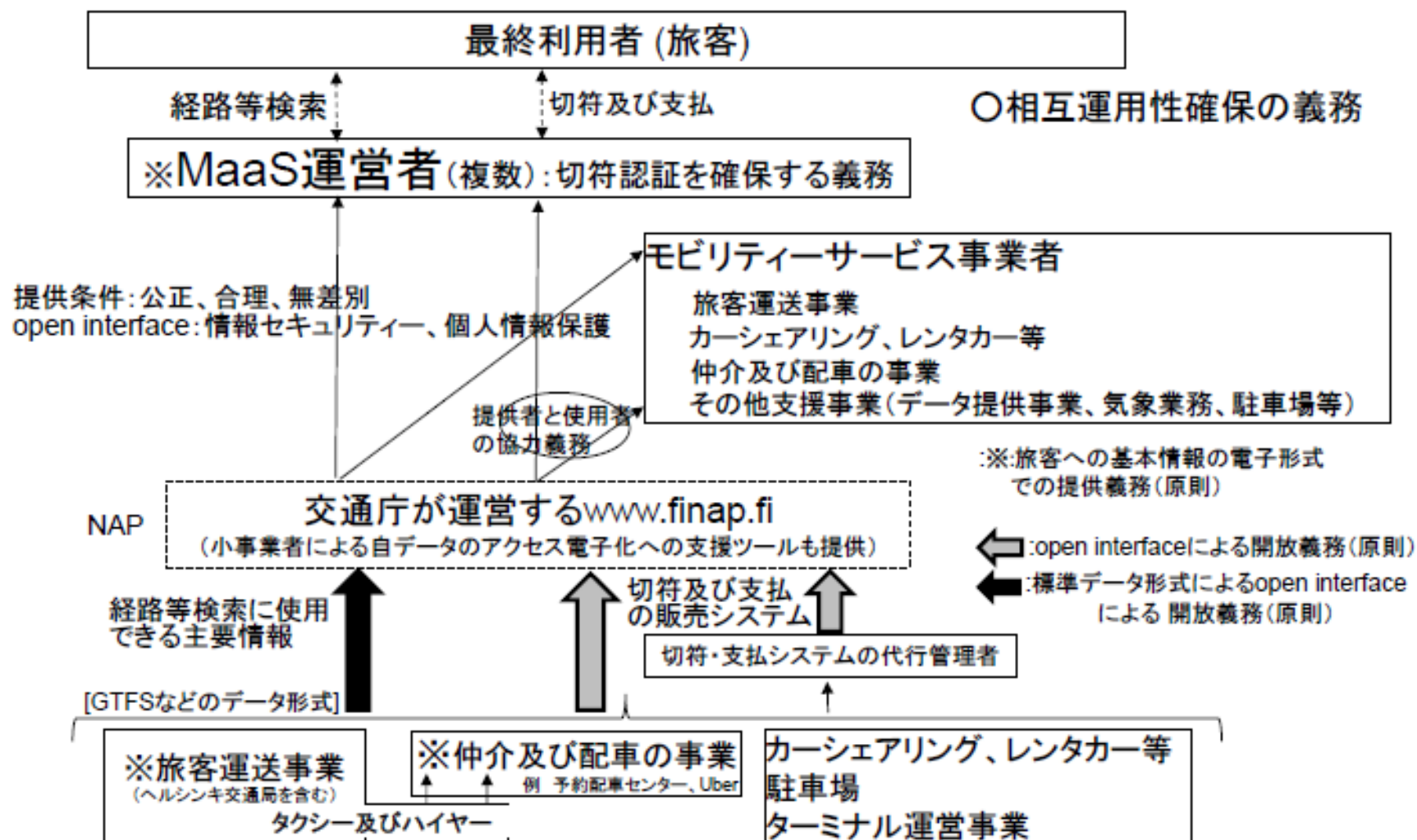


図1 フィンランドの交通事業法(2017年)による関係制度のイメージ(筆者作成)

今後の課題

- 解決すべき都市の課題、都市交通の課題が山積
- 新しい移動手段(シェアリング他)
- 新しい移動の技術(自動運転他)
- 新しい移動のサービス(MAAS他)

→ 電動車両の活躍の場は、加速度的に拡大

地域ごとのニーズに合致する展開力が必要

異分野・異業種連携の発掘と強化

例：地域電力供給と移動サービスの連携等

- ステークホルダー間での情報共有と協調

都市交通ビジネスの変革に向けて

- 都市交通ビジネスの変革

- 車両と運転士の管理という基本業務



- 多種多様な「車両と運転士の管理」
- ニーズとシステムをつなげていく
- ビッグデータの蓄積と活用（マーケティング、計画基礎調査）

- 留意点

- 単なる「利便性の向上」[便利になる]→なくても困らない。



- 直接費用の節約に貢献
- 福祉政策や環境政策との連動重視へ
- 防災対策および災害復興への活用
- 将来の交通政策立案、政策代替案事前評価分析のためのデータ蓄積

まとめ

- 自家用車への過度な依存の弊害からの脱却
- 人間中心のまちづくりに資する都市交通へ
- 都市交通の新技术キーワード:
 - MaaS、シェアリング、自動運転
 - 民間企業の新しい動き
 - 企業と大学との連携
- 都市交通分野での運輸事業の民間主導での業態進化
+
- 官(行政等)によるある程度の管理と側方支援
- 未来の住み良い(Quality of Life)まちづくりへの貢献

まとめのまとめ

挑戦する心(=たくさん失敗する覚悟)

オープンで透明なアプローチ

ローカルコンテキスト

リスク管理

受容性

都市に携わっているという責任感・倫理観

本日の興味

- 行動の変容 行動の変化
- 外出機会、外出実績の変化 その効果、意義
- バス事業者、地方自治体の意識の変化
- タクシー事業者の変化、未来の可能性あるいは危機感
- 研究者の役割